

ご挨拶

五個荘地区では、地区社会福祉協議会、まちづくり協議会、民生委員児童委員協議会などの五個荘地区の福祉関係団体のみなさまとともに「五個荘地区住民福祉活動推進計画」を策定しました。

この計画を推進するため「五個荘地区住民福祉活動計画推進委員会」を立ち上げ、「だれもが人財みんなで支え合うまち 五個荘」をスローガンに掲げて、活動を進めてきました。

令和2（2020）年度から、さらに、五個荘地区の多様な住民活動や福祉活動の状況を共有するとともに、これらの取り組みをつなぎ、紡ぎ合い、協働する態勢づくりと地区全体のゆるやかなネットワークづくりを進めるために、「五個荘地区住民福祉会議」に発展・改編して活動を展開しています。

令和2（2020）年度は、コロナ禍により、中止を余儀なくされる事業や活動が少なくありませんでした。だからこそ、自治会で大切に取り組まれて続けてきた「財」（たから）ともいえる集い、繋がる活動にスポットを当てて発信したい、発信すべきだという想いで、「人は財 まちの財—東近江市五個荘地区26自治会の活動レポート—」を編集・発行しました。

令和3（2021）年度も緊急事態宣言が発令されるなどコロナ禍は続き、昨年度と同様に、五個荘地区での、各自治会での事業や活動が中止されることも少なくありませんでした。

そして、暮らしに身近な場でのふれあいサロンや敬老会といった集いの場や子ども達を対象とした異年齢や世代間の交流の場の再開もままならない状態が続きました。

このような状況下、五個荘地区住民福祉会議では、暮らしに最も身近な「自治会」における福祉活動（自治会福祉活動）がより一層大切になると考え、「自治会福祉活動応援チーム」を編成しました。

そして、地区社会福祉協議会やまちづくり協議会のご協力のもと、五個荘地区の東、南、北の3地区からそれぞれ2つの自治会のご協力をいただき、自治会福祉活動にかかる意見交換を行い、その内容を踏まえて「自治会福祉活動事例集（Part.1）」を作成しました。

今回の事例集の作成を皮切りに、今後、五個荘地区内すべての自治会福祉活動を事例集として発行する予定です。

このたび、ご多用のところ、訪問に応じて下さった、山本町、北町屋町、金堂町、石馬寺町、竜田町、築瀬町の自治会長をはじめ、各関係民生委員・児童委員、福祉委員の皆様にお礼申しあげるとともに、この事例集が自治会福祉活動の参考にいただければ幸いです。

令和4（2022）年3月

五個荘地区住民福祉会議

代表 深尾 浄信

解説編

1 なぜ、自治会福祉活動は大切なのでしょうか

五個荘地区内の各自治会では、自治会ごとに様々な福祉活動に取り組まれてきました。

例えば、ふれあいサロンや敬老会、独居高齢者等の見守り訪問活動、カフェや健康体操等それぞれの自治会の実情と必要に応じた福祉活動（自治会福祉活動）が積み重ねられてきました。

しかし、今般の新型コロナウイルスの感染拡大により、「集う」ことが難しくなり、積み重ねられてきた自治会福祉活動も中断を余儀なくされました。

いつ、どのタイミングで再開するのか、再開するにしてもどのような形がよいのか。「コロナ禍」は、今までの自治会福祉活動を見つめ直す契機ともなりました。

同じ自治会のなかで集ったり、訪問したりして住民同士の「つながり」を確かめたり、「つながり」が弱くなってきたと思われる方に対しては、つながり続けようとしている自治会福祉活動の「尊さ」に気づかされました。

「ふだんのくらしのしあわせ」が「ふくし（福祉）」と説明されることがあるように、人と人、人と地域との「つながり」が弱くなったり、絶たれたりしてしまうと、「ふだんのくらし」の悩みや困りごとを相談できずに抱え込んでしまい、うまく解決できずに、よりしんどい「ふしあわせ」な状態となります。



「コロナ禍」でこの「つながり」が弱くなってきているのではないかと危惧されます。

だからこそ、暮らしの一番身近な自治会という場で「つながり」をつくり、確かめ合い、「ふだんのくらしのしあわせ」を感じることのできるような自治会福祉活動が、改めて大切な営みであるといえるのではないのでしょうか。



2 民生委員・児童委員と福祉委員

民生委員・児童委員は「厚生労働大臣から委嘱され、それぞれの地域において、常に住民の立場に立って相談に応じ、必要な援助を行い、社会福祉の増進に努める方々」（厚生労働省ホームページ）であり、「児童委員」を兼ねておられます。



五個荘地区では、各町に民生委員・児童委員が1人ずつ委嘱されています。

すべての町に民生委員・児童委員がいて、それぞれの町の社会福祉の増進が図られているのが五個荘地区の特徴でもあるのです。

そして、民生委員・児童委員の方々は自治会員であるかどうかにかかわらず、民生委員法に基づき、町内の住民の困りごとに対する個別の相談・援助活動を担っておられます。

自治会福祉活動を推進していくためには、民生委員・児童委員の方々は、なくてはならない存在です。しかし、担当する世帯数や人口、高齢化率などの状況は町によって随分異なります。*

少子・高齢化の進み方も町によって異なるなか、民生委員・児童委員と共に住民福祉活動を進めていく自治会の福祉委員は、今後一層大切な役割を担うことになるといえるでしょう。

※「民生委員・児童委員を増やせばよいのではないか」という意見もありますが、現在は、地区ごとに「定数」があるために増員は難しいのが現状です。

3 福祉委員の役割

自治会から選任された福祉委員の方々は、毎年度はじめに各自治会長が地区社協に報告することとされています。令和3年度に地区社協に報告された福祉委員の合計人数は65名で、1自治会あたり平均2.5名となっています。

ここでは、各自治会における福祉委員の選任方法や任期、地区社協が開催する福祉委員研修会でお伝えしている福祉委員の役割について紹介します。

(1) 福祉委員の選任

福祉委員は、現状では、大きく分けて以下の3つの方法で選任されています。

複数の福祉委員を選任すると、福祉委員同士で相談しながら活動できますし、課題を共有することはできます。また、それぞれの得意分野やあまり得意でないこと等を補い合いながら活動できます。

①自治会長から直接依頼（委嘱）

・自治会長が住民から福祉委員を依頼（委嘱）します。

②手上げ方式（公募）

・自治会長が福祉委員を公募して、「やりたい」と思った方を福祉委員に依頼（委嘱）します。

③紹介方式

・①や②で福祉委員に依頼（委嘱）された方が、他の人も推薦・紹介します。

(2) 役割

地区社協では、毎年、福祉委員には①気づく、②受け止める、③つなげる、という3つの役割があることを研修会で説明しています。

①気づく

・ふだんの見守りや声かけの中で身近な人の“困りごと”や“変化”に気づきます。
・世間話や住民同士のおしゃべりで、自治会の行事やサロン活動などでも身近な人の“困りごと”や“変化”に気づきます。

②受け止める

・「家族がいるから」「誰かが考えてくれる」「自分には関係ない」「福祉の専門家が出入りしているからもう安心」ではなく、気づいた“困りごと”や“変化”を受け止め、地域の課題としてとらえます。

③つなぐ

・気づき・受け止めた課題を福祉（推進）委員会等で相談し、話し合い、共有します。そして、

必要に応じて社協や行政に相談します。

(3) 任期

福祉委員の任期は、1年～2年や任期を設けないなど自治会によって異なります。

どれがよいとは一概には言えませんが、自治会福祉活動の担い手を増やし、その裾野を拡げていくためには、任期と交替する人数の組み合わせによって、活動の継続性を確保できるような工夫が必要です。

4 自治会福祉活動推進体制

五個荘地区における自治会福祉活動は、自治会活動の一環として、それぞれの自治会の実情に応じた体制で進められています。現状では大きく4つのパターンがあります。

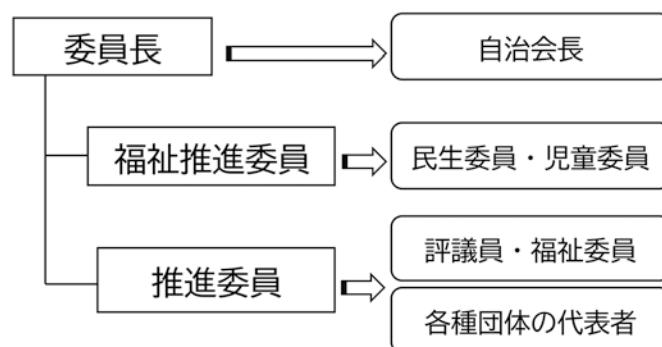
「自治会福祉（推進）委員会」と記載しているのは、自治会によって「自治会福祉委員会」としていたり、「自治会福祉推進委員会」としていたりするパターンがあるため、便宜的な表現として用いています。

なお、自治会福祉活動は、これらのパターンにこだわらず、地域の実情に応じて新しい方法が創り出されていくものなのです。

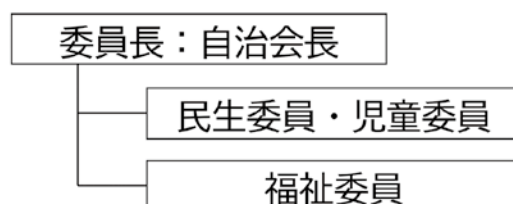
Aパターン 自治会福祉（推進）委員会を組織して推進する

(1) 「自治会福祉（推進）委員会」が中心となって推進する

- ①自治会長を委員長とし、民生委員・児童委員を「福祉推進委員」とし、福祉委員、評議員、各種団体の代表が「推進委員」として自治会福祉（推進）委員会として自治会福祉活動に取り組む。

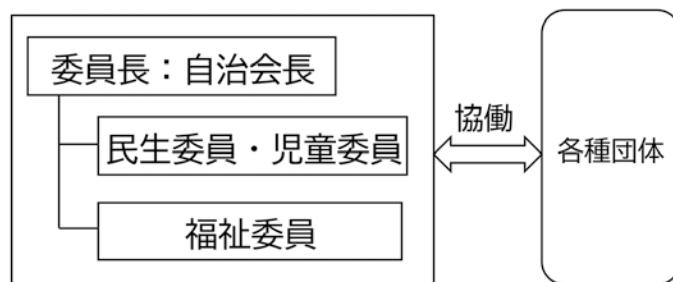


- ②自治会長を委員長とし、民生委員・児童委員、福祉委員が自治会福祉（推進）委員会として自治会福祉活動に取り組む。



(2) 「自治会福祉（推進）委員会」と自治会の各種団体が協働して推進する

- ・自治会長を委員長とし、民生委員・児童委員、福祉委員からなる自治会福祉（推進）委員会が、自治会の各種団体と協働して自治会福祉活動に取り組む。



Bパターン 自治会（福祉）委員会を組織せず推進する

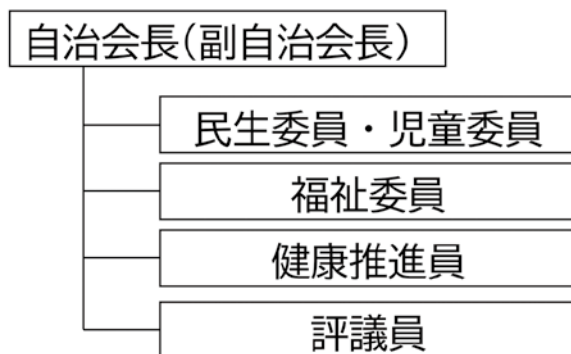
(1) 「民生福祉部会」や「福祉部会」などの「部会」が中心となって推進する

- ・「自治会福祉（推進）委員会」は組織せず、自治会長（副自治会長）と民生委員・児童委員、評議員から選任された福祉部会員と福祉委員が「民生福祉部会」や「福祉部会」を組織して、自治会福祉活動に取り組む。



(2) 自治会でグループをつくって推進する

- ・「自治会福祉（推進）委員会」は組織せず、自治会長（副自治会長）、民生委員・児童委員、福祉委員、健康推進員、担当評議員でグループをつくり、自治会福祉活動に取り組む。



ポイント

【自治会福祉活動推進3つのポイント】

1. 自治会長、民生委員・児童委員、福祉委員の3者を核として組織的に活動を進めましょう
2. 福祉委員の任期を複数年にするなど、活動を継続的に展開できるための仕組みを工夫しましょう。
3. 福祉（推進）委員会は男女共同参画で進めましょう。

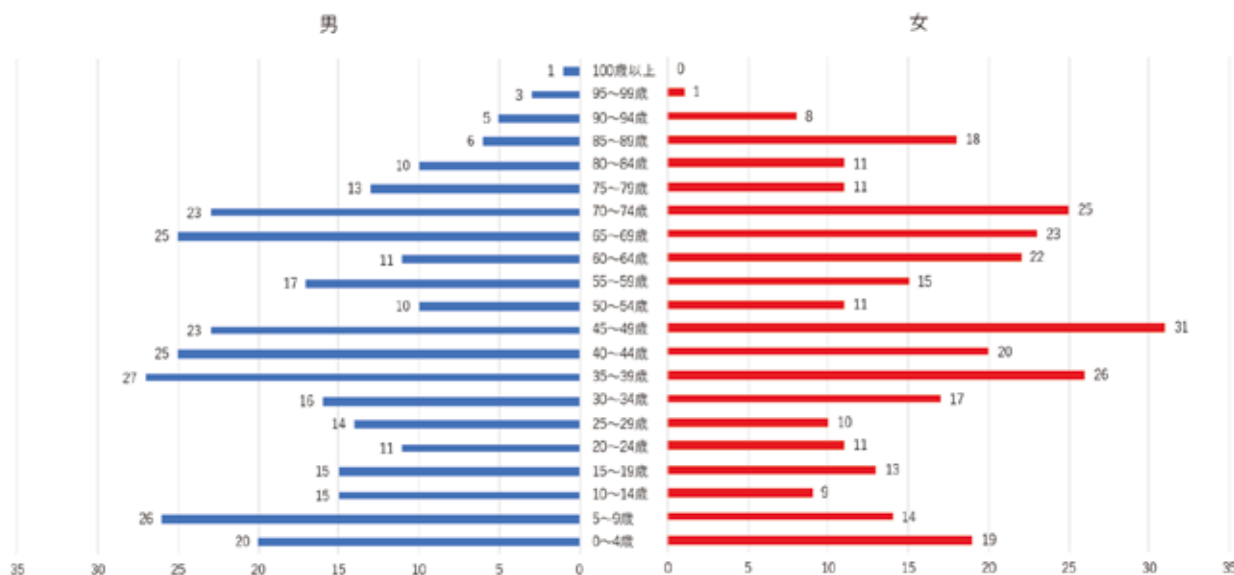


事例紹介編

ここでは、令和3年度に五個荘地区住民福祉協議会の自治会福祉活動応援チームのメンバーが訪問してお話を伺った五個荘地区の東（山本町、北町屋町）、南（金堂町、石馬寺町）、北（竜田町、築瀬町）の3地区6自治会の自治会福祉活動の体制や取り組み等について紹介します。



東地区 ①山本町… 8頁 ⑨北町屋町…10頁
 南地区 ⑫金堂町…12頁 ⑯石馬寺町…14頁
 北地区 ⑳竜田町…16頁 ㉔築瀬町……18頁



山本町の人口ピラミッド

1. 福祉委員会発足の経過

山本町ではボランティアの方々が「ふれあいサロン」に熱心に取り組んでいて、平成27（2015）年の夏には自治会館で「山本カフェ」（ワンコインカフェ）も始まった。

この「ふれあいサロン」や「山本カフェ」のボランティアの方々を中心として福祉委員会の形がつけられていく。

平成29（2018）年8月には、「いのちのバトン」の日に、バトンに入れる「救急医療情報用紙」更新時に、福祉委員がキット（バトンと用紙）の全戸配布に担当組別に対応した。

そして、平成29（2018）年12月に市社協・地区社協主催の「つながりづくり講演会」への参加を契機として、平成30（2019）年3月から「支え合いマップ」づくりの取り組みを開始し、翌月の4月に福祉委員会が設立された。

設立当初の福祉委員の人数は10名であった。

「支え合いマップ」を作っていく過程で、福祉委員の「組担当制」が生まれた。当初、2つの隣組当たり1名の福祉委員を配置した。

「支え合いマップ」づくりは、最初は住宅地図を使っていたが、住宅地図を使うよりも（住宅地図は頭に入っているの）「集まって話をした方がよい」ということになり、現在の形となった。



サロンやカフェ
のボランティア
が福祉委員に

福祉委員会を
設置

住宅地図方式から
話し合い方式へ

2. 福祉委員会の特徴

①組織構成と人数

自治会長、副自治会長とサロン、カフェのボランティア、自治会の「人財」に

お願いしたり、自治会広報で委員を募集したりして重層的に構成されている。

現在11名の福祉委員が活動していて、男性5名、女性6名で女性が1名多い。

②任期

任期はない。(自治会長、副自治会長除く) 自治会長を退任後、福祉委員として継続して活動する方も多い。

Y福祉委員の言葉「見守られるようになるまで、見守ります」

公募も実施
福祉委員は
11名に

福祉委員の任期
なし

3. 福祉委員会の活動

①福祉委員の「組担当制」による「見守り活動」

- ・現在、各福祉委員が担当する組のひとり暮らし、気になる方へ、見守りグッズ(地区社協)を持参し、16名を対象に月例の見守り活動が行われている。

☞サロンやカフェ(中断中)は別のボランティアグループが実施。

②偶数月の第2水曜日に福祉委員会を開催(定例化・年6回開催)

- ・定例会には、自治会長、民生委員・児童委員の出席による福祉委員との情報交換を実施。
- ・情報交換では、福祉委員が担当する見守り対象者の様子の報告や課題についての意見交換をはじめ、定例民協の報告や必要な生活情報、福祉関係の情報共有が行っている。
- ・情報共有のために「紙」は使わず、会議記録は事務局で管理する。

③グループLINEを活用

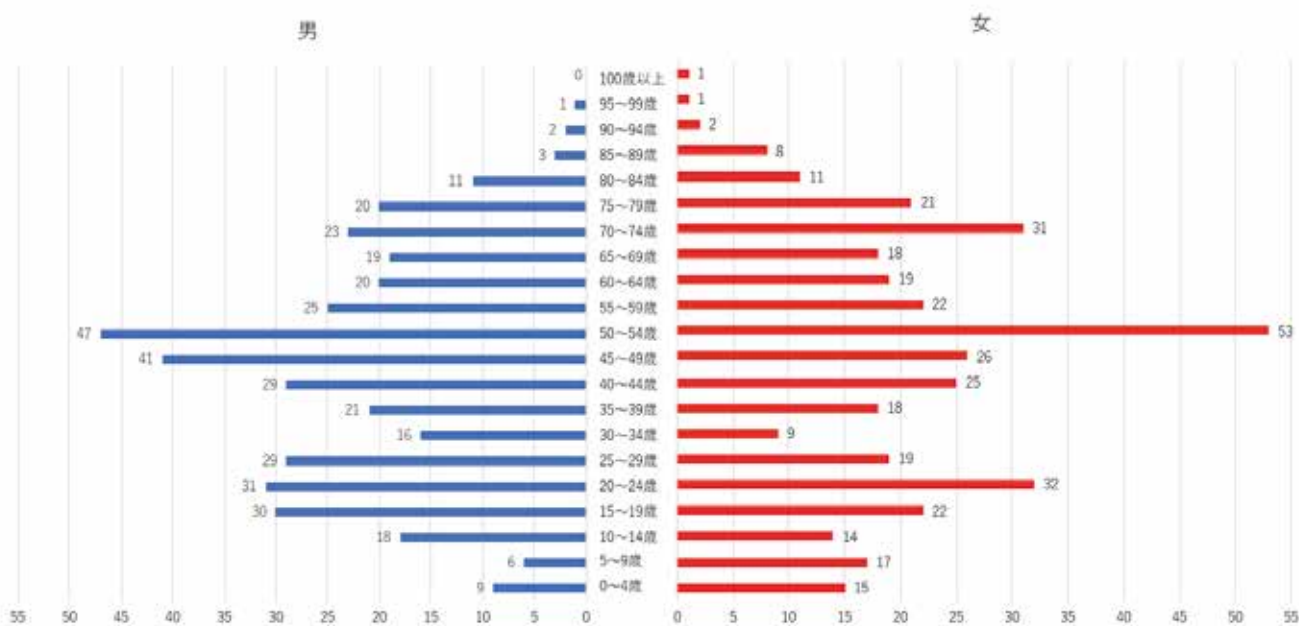
- ・福祉委員会でグループLINEをつくり、情報を共有する体制を作った。(令和2(2020)年1月～)新型コロナウイルスのワクチン接種への対応について民生委員・児童委員を中心に接種への情報が共有され、見守り対象の高齢者への対応にあたった。また、8月14日の大雨による高齢者等避難指示の対応について、グループLINEで情報共有がされた。(下図:イメージ)

組担当制

年6回の定例会議

グループLINEで
情報交換

ワクチン接種に関して 今朝見守り品を持って■さんへ行っただけで ワクチン接種の用紙届いているか確認したらやはり 「わからんわ〜」とのこと。(中略)コールセンターにも 念のため電話したら、再発行可能とのことでした。 (中略)以上お伝えします。[I委員] 本日本庁のコロナワクチン接種推進に赴き確認し た情報(写真添付)を共有しておきます。[民生委] 資料添付紹介掲載 ウイルス 情報ありがとうございます。もし、可能で あればFAXお願いします。[Y委員] 情報ありがとうございます。やはり接種券が来た かどうかわからない方がおられますね。明日行って 確認します。[I委員] 県からの情報をお知らせします。[K委員] 県情報の詳細を記述 ■さん宅では、娘さんに始めてお会いでき、接種 券OK。接種も私が同行します!とのことでした。報告	8月14日の大雨・高齢者避難指示について 避難指示(?)が山本町の高齢者にも出されまし たが、担当の高齢者の方が気になります。 どうしたらいいのでしょうか? [Y委員](11:14) 取り敢えず電話で話しました。「ここに居て」と言 われ、「なんかやったら言ってください。」と言いま したがい… 災害時の避難の方法や心構え、備えの必要を痛 切に感じました。[Y委員](11:29) 今気になったので■さんは確認しました。 現在自治会館にいます。尚、自治会長にも連絡済み です。[民生委](12:04) とりあえず見守りの方には声を掛けてもらった方 が良いとおもいます。ただし、危険な所には近づか ない様に。[民生委](12:14) 担当の方には、連絡とりました。喜んでいただきま した。[Y委員](12:34) お疲れ様です。特にハザードマップでの山に近い 危険箇所が心配です。[民生委](12:41)
---	--



北町屋町の人口ピラミッド

1. 福祉委員について

(1) 人数と性別

- ・福祉委員は4名。毎年自治会三役で訪問して就任を依頼する。（任期は基本的に1年単位）
- ・福祉委員は、男性2名であったが、令和3年度は女性2名に加わってもらい、合計4名で男女比率を同じにした。一方、同じ方が福祉委員となることが多い。



福祉委員は男女
同数に

(2) 役割と活動

年度当初に民生委員・児童委員が福祉委員の方々に役割と活動について説明している。（以下はその内容を一部編集したもの。）

①訪問活動

- ・75歳以上で一人暮らしの方への見守り訪問（月1回）
- ・1年1回、80歳以上の方への「お元気ですか」訪問（年1回）
- ・民生委員・児童委員の「はじめまして あかちゃん にこにこ訪問」への協力
- ・気になる方（軽度認知症の方）への訪問
- ☞歳末訪問でマスクを配布する対象の方は47人。民生委員・児童委員、福祉委員で手分けして配布（訪問）する。独居高齢者が14人いるが、皆それなりに元気なことが自慢。
- ☞独居高齢者の方が借りている畑が草だらけになっていたのを、訪問してみたら骨折をしていたことが分かったということもあった。
- ☞訪問活動は1人ではなく複数の方が心強い。

訪問活動は複数
が心強い

②普段の生活の中での隣近所への気配り

- ・転入、転出、葬儀、病気等

☞独居高齢者の家の窓が開いているか確認したり、見かけると声をかけたりして、福祉委員として日常的に見守り、声をかけるようにしている。

普段の見守りと
声掛け

③訪問のきっかけづくり

- ・例えば高齢者の誕生年月に誕生祝いの訪問をする。

2. ふれあいサロン、敬老会等の自治会福祉活動

- ・敬老会とふれあいサロンは自治会役員（3役と10名の評議員）が運営する。
- ・敬老会は75歳以上が対象で82名。サロンは70歳以上を対象にしていたが、敬老会の75歳以上に合わせた。参加するのは半分以上である。
- ・コロナ禍でいずれも中止とし、対象者を訪問して品物を配って安否確認を行った。

敬老会とサロン
は三役と評議員
が運営

※町内のご高齢の方が、友人宅で「ふれあいサロンがないので寂しい」と話されていた。コロナ禍でもあり、自治会も開催できずに困っているところであった。その方は、盛大なサロンでなくてもよいので集まって話をしたいとのことであった。

※自治会評議員はブロック毎の選出方法に変えた。（毎年評議員が変わる可能性がある）それにより初めて女性が評議員となった。

3. 今後の取り組みへの思い～民生委員・児童委員より

- ・3か月に1回ほど福祉委員の情報交換の場をもちたい。
- ・福祉委員も敬老会やサロンの担い手として参加できるようにしたい。
- ・福祉委員の方々と一緒に高齢者や赤ちゃん訪問をしていきたい。

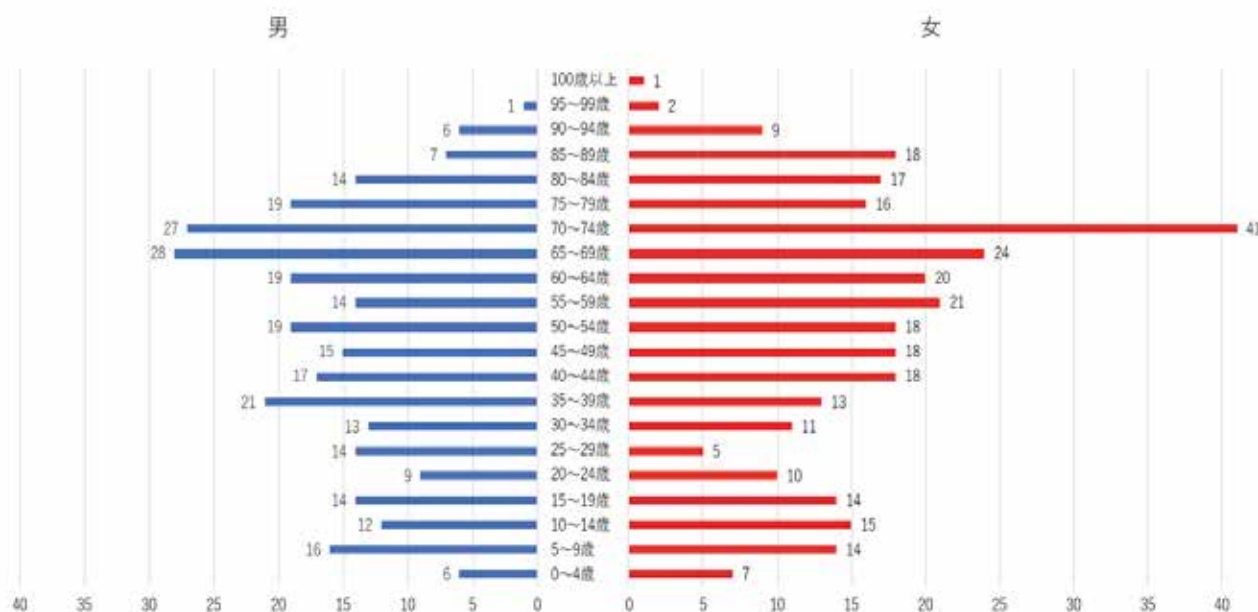
定期的な情報
交換を

付記 【若い衆】の思い

- ・コロナ禍で祭禮は式典のみとなっている。若者からは「やってほしい」という声もあがっている。祭禮の手順などは2年開催しないと分からなくなる。来年に今まで通り開催できるかどうか不安である。
- ・北町屋町で毎年行っていたサマーカーニバルの担い手不足から、年齢を問わず有志を募り「イベント実行委員会」を立ち上げた。35歳から50歳まで10名の「イベント実行委員会」は、サマーカーニバルだけではなく、中山道灯り路や北町屋町で定期的に行われている清掃活動、年末の年越し振る舞い蕎麦など幅広く活動している。今後、ふれあいサロンなどの福祉活動への協力を期待している。



北町屋町集会所



金堂町の人口ピラミッド

1. 自治会福祉活動の体制

- 福祉（推進）委員会をつくっていない。自治会福祉活動は、①正副自治会長（2名）、②評議員（4名）、③福祉委員（2名）、④民生委員（1名）、健康推進員（3名）が担い手となって実施している。（評議員は福祉担当と人権担当を決めている。）
- 福祉委員の任期は定めていなく、民生委員・児童委員は退任後に福祉委員に就任するという流れになっている。このことで自治会福祉活動の継続性を確保している。
- 敬老会とサロンの運営は自治会長の奥さんもお手伝いする。料理は健康推進員さんが中心となり教えてくれ、「なかよし会」のメンバーが料理をする。役割が順送りになっており、継続している。
※「老老介護」等で行事に参加できなくなった人も出てきた。生活ごみの搬出は、お隣さんが助けている。

ポイント

福祉委員の任期
なし役割順送りで継
続する

2. 自治会福祉活動の内容

①敬老会

- 75歳以上の方を対象に毎年10月に開催している。令和2（2020）年度からコロナ禍で中止となっている。
- 例年、自治会館に60数名が集うが、今年度（令和3年度）は正副自治会長と評議員（14名）が手分けして、1人約10名を担当して訪問して配った。全部で119名に記念品を配った。

②ふれあいサロン

- ・79歳（満80歳）以上の方を対象に毎年6月に開催している。令和2（2020）年度からコロナ禍で中止となっている。

③なかよし会

- ・平成20（2008）年から年1回の敬老会とサロンの間に「なかよし会」を開催している。
- ・65歳以上の方を対象に年9回開催している。コロナ禍でも開催回数を減らし開催した。令和2（2020）年度は5回、令和3（2021）年度は7回開催する。
- ・開催時間帯は10：00～11：30で、参加費は100円。
- ・「なかよし会」の案内はピンク色の紙に決め、回覧板で案内している。
☞多い時は20人位参加していたが、現在は、75歳以上の方が7～8名参加してしている。
- ・運営を担うのは、福祉委員、健康推進員（3名）、民生委員。福祉委員が健康体操をしておしゃべりタイムとなる。以前は歌やゲームもしていた。ホットケーキやお好み焼きを焼いたり、節分にはお面に色を塗って、自治会館の軒先に吊るし、豆を撒いたりしていた。
- ・今年はオリンピックイヤーであり、聖火ランナーのトーチを借りて記念撮影をした。

敬老会、サロン、
なかよし会の3
つの集いの場

④独居高齢者等見守り訪問

- ・今年（令和3年）から開始した。33名を対象としている。（75歳の独居高齢者と障がいのある支援が必要な方9～10名）
- ・訪問は正副自治会長（2名）、評議員（4名）、福祉委員（2名）、民生委員・児童委員（1名）が担当している。継続的に関わられるよう1人が3～4名の担当する人を決めて毎月訪問している。自治会の班別（隣組別）の名簿があって、班別で担当を決めているが、民生委員・児童委員が訪問する人については、班とは別に決めている。
- ・毎月訪問することで、最近の家族の様子など、分からなかった情報も入ってくる。
- ・現時点では、訪問後の話し合いや訪問した方の様子を記録することはできていない。

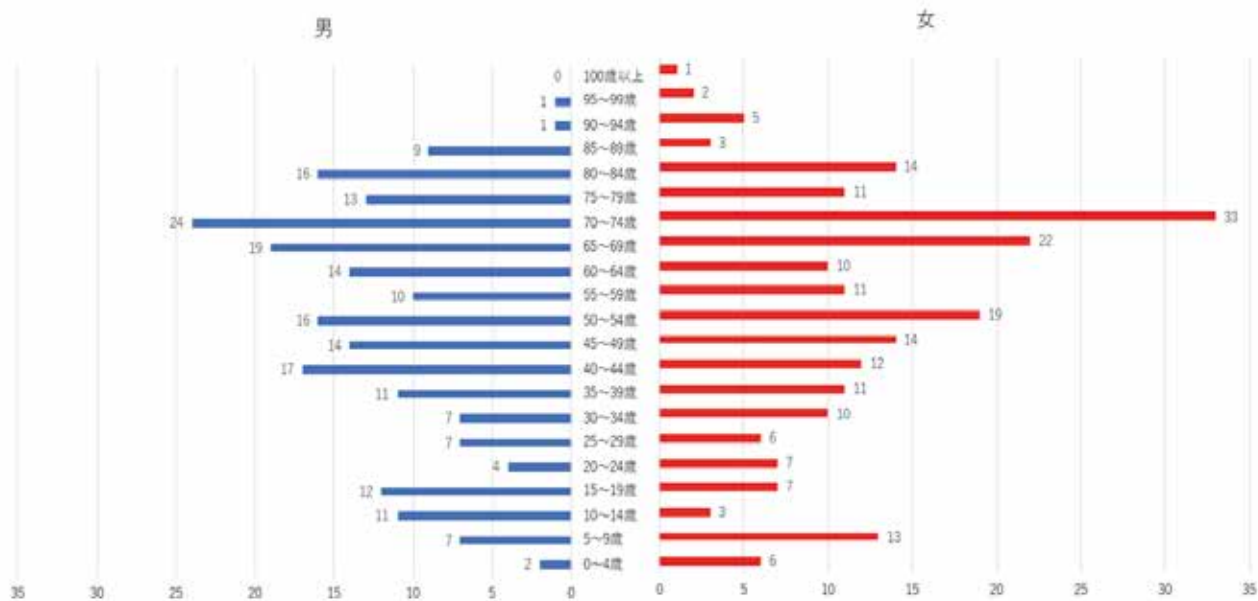
ひとり暮らし高
齢者等見守り訪
問を開始

付記 コロナ禍で

- ・今年、6年生の家族を対象に、草の根広場で花火大会をした。それぞれ家族単位で距離をとって花火をするので、交流は難しかったが、地蔵盆も縮小開催となり、子ども向けの行事が中止になるなかで、少しでも思い出に残るようという思いから企画した。
- ・金堂まちなみ保存会の「金堂まちたんけん」（年1回開催）は、13年ほど続けてきたが、この2年は中止となっている。
- ・農環境保全協議会のコスモス畑、宝探し、芋掘りは今年も実施された。



金堂町自治会館



石馬寺町の人口ピラミッド

1. 自治会福祉活動推進体制

- ・自治会長、副自治会長（2名のうち1名が福祉委員会委員長）、民生委員・児童委員、健康推進員（2名）、人権福祉推進員（2名）が自治会福祉活動を担当する。
- ・三役の奥さんが自治会の役とは別枠で協力している。

<自治会の役の決め方>

- ・選挙で選ばれた評議員から自治会長を選ぶ。自治会長の再任はない。
- ・評議員は自治会員全員が投票する。2年経ったら、一旦は候補者から外れる。
- ・同居世帯であると、高齢者が世帯主であることが多いので、被選挙人に世帯で若い人があがってこない。そこで、72歳定年制として、同居世帯であっても被選挙人として名前があがるようにした。（自治会役員の定年制の実施）
- ・自治会の役には「防災」・「環境土木」・「福祉」があり、選挙にて副会長2名を選出。1名は会計となり翌年自治会長を務める。もう1名の副会長は、まちづくりの長となり、福祉の長を務める。



福祉委員長は副
自治会長

自治会役員72歳
定年の導入

2. 自治会福祉活動の内容

①敬老会（9月）

②ふれあいサロン（11月）

- ・平時は、事業の1～2か月前に委員会を開いて内容を話し合う。例年はアトラクション、マジック、音楽演奏を催し、昼食を振舞う。

③独居高齢者等見守り訪問

- ・年度始めに会合をしている。
- ・見守り対象者は12名（うち団地の方が9名）
- ・自治会長と民生委員・児童委員2名が見守り訪問を実施している。
☞回覧板や資料配布も見守り活動になっている。組長が各戸に資料を配布し、回覧板を回して状況確認する。何かあれば自治会長に連絡することになっている。1組は10軒程度。

回覧板で状況確認

<コロナ禍で>

- ・今年（令和3年）の4月に安心・安全な生活を最優先するという方針を決定し、ほとんどの行事ができなくなった。高齢化が進んでおり取組が必要なことがあるので「何をしてほしいか」から考えていきたい。

3. 趣味の活動や集いの様子

①自治会館での趣味の活動

- ・休止となったサークルがあるが、編み物は毎週土曜日に開催されている。

自治会館で趣味の活動

②グラウンドゴルフ

- ・週2回実施していて熱心にプレーしている。子ども会と寿会が一緒にやることもある。

③子ども会と寿会

- ・子ども会と寿会で10月に定例で花植えをやる。芋苗植えと芋掘りも一緒にやり、仲が良い。
- ・寿会が管理する梅林がある。20本の梅の木があり、収穫した梅の実は、回覧板で回して販売する。梅は梅干しや梅酒を作ったりして楽しむ。

④イベント

- ・夏祭は7～8月に開催していて、自治会館前で舞台や模擬店をやる。
- ・運動会ならぬ「楽動会」を10月の第1週の日曜日に開催している。①ハイキングコース、②グラウンドゴルフ、③子どもの遊び広場の参加を事前に募り、それぞれ参加する。終わるとみんなで集まって食事と抽選会を実施する。

「楽動会」で町民交流

⑤入学祝いの「黄色い傘」

- ・町の子どもが小学校に入学する時に自治会から黄色い傘をプレゼントする。元々石馬寺の近江商人がやっていたことを引き継いでいる。

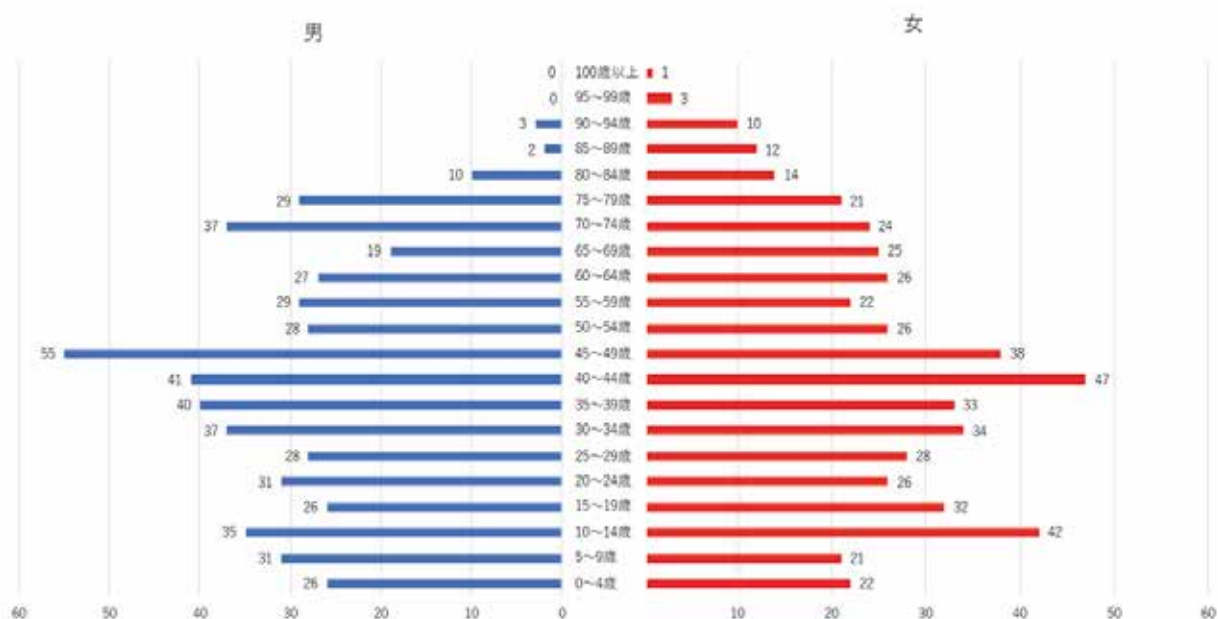
近江商人の営みを継承

付記 令和3年8月14日の大雨の対応

- ・8月14日の大雨の時は、警戒レベル3（危険な場所から高齢者等は避難！）で自治会館を開けて、放送を入れた。夜11時に一旦撤収し、翌朝9時に開けた。警報レベル4（危険な場所から全員避難！）になり、終日自治会館を開けて、自治会長等5名が宿直した。
- ・評議員と特設消防隊に来てもらい、2～3名がペアになり巡回した。
※瓜生川は天井川で、氾濫すると自治会館は水没する。



石馬寺町自治会館



竜田町の人口ピラミッド

1 自治会福祉活動推進体制



- ・自治会長、副自治会長、民生委員・児童委員、評議員（福祉推進委員4名）、福祉委員（3名）、人権のまちづくり委員（2名）、健康推進員（2名）の計14名（男性5名、女性9名）で構成される福祉推進委員会を設置している。

福祉推進委員会
を設置

2 令和3年度（上半期）の自治会福祉活動

①独居高齢者等見守り訪問活動

- ・自治会独自で実施していたが、今年度から地区社協の事業を活用して実施している。
- ・気になる人をリストアップして、福祉推進委員会のメンバーが毎月20軒を訪問している。うち独居高齢者は13名で喜んでいただいている。
- ・食事については、女性は生協等を活用してセルフマネジメントできる方が多いが、男性は不安な面もある。
- ・女性の福祉推進委員一人で男性宅を見守り訪問するのは不安な面もある。今後、評議員や健康推進員、人権のまちづくり推進員が入って訪問活動を実施する必要があると考えている。

自治会独自の
見守り訪問に地区
社協事業を活用

②夏休み子ども交流会

<背景>

- ・竜田町は五個荘で一番大きな自治会で、若い世代の世帯が増えていて、自治会と若い世代との関わりが課題となっている。

若い世代に目を
向けて

- ・若い世代では、自治会に入らないとか自治会費を払うのが嫌と思っている方もいる。自治会のことを知ってもらうためにも、若い世代に焦点をあてようと考えた。

夏休みに自治会館で子ども交流会を開催

<経過>

- ・今年の3月に五個荘コミュニティセンターに行き、スタッフから1時間ほどプログラムを教えてもらった。五個荘コミュニティセンターでも勉強会、交流会を実施するので、竜田町で実施するプログラムと調整した。

<実施内容>

- ・「ランプシェードづくり」(7月28日)・「おはなし会」(8月4日)

<実施体制>

- ・自治会主催で実施(子ども会が協力)
- ・参加募集は、自治会館事務員と子ども会の方がやりとりをして、子ども会からLINEで参加募集してもらった。
- ・1回目(ランプシェードづくり)には6名、2回目(おはなし会)には4名の保護者がボランティアで参加した。(当日運営はLINEで募集した保護者のボランティアが主体的に動いている。)



子ども交流会の様子

保護者ボランティアが活躍

<参加者>

- ・1回目は20名、2回目は10名ほどの子どもが参加した。

③ラジオ体操

- ・外に出て身体を動かす機会が少なくなっていることから、あじさい広場でラジオ体操を実施することにした。7月26日から18日間実施した。子ども会が協力的で、当番をつくってもらった。主に福祉推進委員会が担当をした。
- ・竜田の子ども80名のうち、40名が参加。6年生が19名いるが、そのうち毎日14~15名が参加した。ラジオ体操は全部で毎日80名ほど参加された。皆勤賞の方もいた。



竜田町自治会館

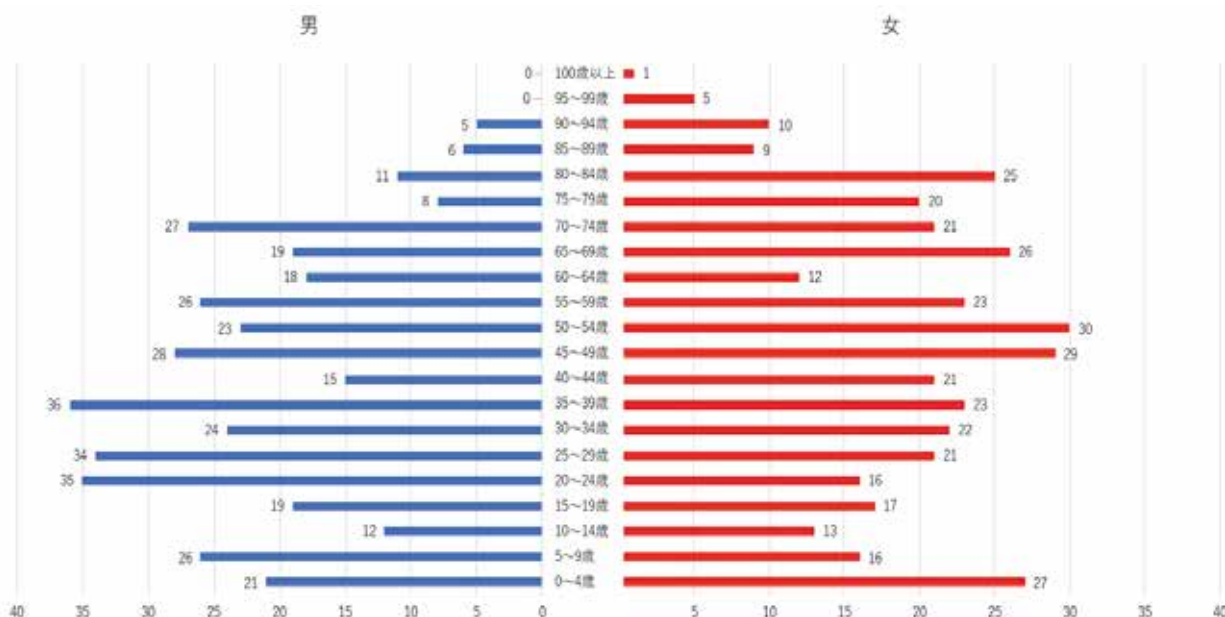
3 コロナ禍で

- ・令和3年4月19日に新型コロナウイルスワクチン接種予約が開始されるにあたり、自治会館の事務員が9名の高齢者の予約を代行した。令和4年2月には11名の予約を代行した。
- ・自治会事業は、コロナ禍で実施できていない行事やイベントがある。今年度は、主に美化活動と夏休み子ども交流会を実施。敬老会は開催せず、記念品をお届けした。
- ・寿会の行事は実施されている。
- ・ボランティアグループによる「ふれあいカフェ」(毎月第2、第4土曜日に開催)は中止中であつたが12月に再開した。
- ・10月30日に自治会館で「オンラインてんびんの里ふれあい広場」の動画鑑賞会を実施した。
- ・12月31日に竜田神社で恒例の年越しそばを神社組織と共同で実施した。

自治会事務員さんのワクチン予約代行



ふれあいカフェの様子



築瀬町の人口ピラミッド

1 福祉委員会について

- ・自治会長、民生委員・児童委員、福祉委員（3名）で構成している。
- ・福祉委員は選挙ではなく、自治会長が直接依頼する。交替する場合は後任の方を見つけて引き継ぐようにしている。
- ・任期は設けていないが、平均2～3年である。
- ・「福祉委員会」としての会議は開催していない。

ポイント

福祉委員会を
設置福祉委員の任期
はなし

2 自治会福祉活動について

①ふれあいサロン

- ・自治会の「民生福祉部」がスタッフとして運営する。
- ・「民生福祉部」は自治会の選挙で選ばれた方で任期は1年。
- ・年8回開催し、内容は民生委員・児童委員が企画することが多いが、コロナ禍で2年間は開催していない。

※五個荘町時代の平成8年にモデル事業として開始され、以降、毎月第3土曜日の午前10時から開催されてきた。平成23（2011）年3月に、五個荘地区まちづくり協議会が設置した「わがまち一番」の看板には「ふれあいの町 築瀬」として、築瀬町のふれあいサロンが次のように紹介されている。

「ふれあいサロン」を15年間毎月開催できるのは、町民の皆様による献身的な奉仕の賜物です。この素晴らしい奉仕精神土壌は、私達が子孫に残さなければならない財産です。「老人と子どもがふれあう町」が我が町の目標です。

自治会の民生福
祉部がサロンを
運営サロンの食事づ
くりボランティア
「ふらいぱん」

- ・ふれあいサロンの食事づくりボランティア「ふらいぱん」※も活動していないが、昨年11月に米が残っているため、「ふらいぱん」スタッフの提案で、70食の弁当をつくって配布し大変喜ばれた。

※「ふらいぱん」は、五個荘町時代に、独居高齢者の方等に食事を配達する「配食サービス」のボランティアとして活躍していた。合併して東近江市となり、ボランティアとして活躍していた築瀬町の方々が「ふらいぱん」というボランティアグループを結成し、ふれあいサロンの食事づくりを担当している。

②いっぽくサロン

- ・民生委員・児童委員と福祉委員3名で運営する。
- ・毎月第4水曜日の午後に開催し、年間10回開催している。
- ・コロナ禍で2年間は開催していない。

2つのサロン～
ふれあいサロン
といっぽくサロン

③敬老会

- ・イベントは中止。
- ・150人の高齢者（70歳以上）を対象に、民生福祉部と民生委員・児童委員、福祉委員、自治会役員で1人10名ほどを担当してお祝いの品物を配布した。

④独居高齢者等見守り訪問

- ・対象者16名を民生委員・児童委員と福祉委員3名の4名で分けて訪問するようにした。
- ・歳末訪問は、福祉委員だけではなく、民生福祉部の方々と手分けして実施したい。

民生委員・児童
委員、福祉委員
で訪問

付記

- ・寿会は会員が集ってゲートボール等を楽しんでいる。
- ・30名位小学生がいて、通学時の見守りを行っている。子ども会がスケジュールを決めて、自治会有志も参加して（手上げ方式で30～40名が参加）子ども達の通学を見守る。
- ・コロナ前は築瀬環境保全会の方々が餅つきをしてくださっていて、子どもたちが喜んで参加していた。
- ・住民の一部から来年（令和4年）は夏祭りとスポーツフェスタをやってほしいという要望書が出されている。



わがまち一番の看板



築瀬町自治会館（報徳館）

令和3年度 五個荘地区住民福祉協議活動チーム名簿

【代表 深尾 浄信】

※五十音順・敬称略

<自治会福祉委員会活動応援チーム>

	氏 名	所 属
1	市田 衛	五個荘地区社会福祉協議会 総務部会長
2	大橋 保治	五個荘地区まちづくり協議会 安心・安全部会長
3	川嶋 重剛	五個荘地区社会福祉協議会 事務局長
4	北川 友一	健康倶楽部ごかしょう 会長
5	小杉 勇	五個荘地区まちづくり協議会 会長
6	佐々木律子	ボランティア
7	外村 俊夫	てんびん倶楽部（ケアプランセンター福来朗）
8	西 義一	五個荘地区民生委員児童委員協議会 会長
9	西村 貞之	五個荘地区社会福祉協議会 理事

<五個荘「集いの場」応援チーム>

	氏 名	所 属
1	池尻 雅	東近江市社会福祉協議会 地域福祉課 主事
2	木村 光男	五個荘地区社会福祉協議会 理事
3	溝江麻衣子	地域住民（東近江市まちづくり協働課）
4	吉居 崇司	五個荘地区まちづくり協議会 副会長
5	河村 栄一	五個荘地区社会福祉協議会 広報部長 五個荘地区まちづくり協議会 運営委員
6	堤 洋三	社会福祉法人 六心会 理事長
7	安居 詩帆	地域住民（まちづくり協議会 広報担当）
8	細居 悦子	五個荘地区まちづくり協議会 運営委員

<子ども・子育て応援マップづくりチーム>

	氏 名	所 属
1	猪田 耕平	地域住民（保健師/東近江市地域包括支援センター）
2	関 菊世	サラナ親子教室 代表
3	志井 和美	養護老人ホームきぬがさ 副所長
4	野々目良一	～くらしのお手伝い～ほっとハート五個荘代表
5	上田 祐子	東近江市社会福祉協議会 地域福祉課 係長
6	篠原 玲子	五個荘地区まちづくり協議会 運営委員
7	林 留奈	地域住民（保健師/東近江市保健子育て複合施設ハピネス）

事務局 辻 薫・奥村 昭（社会福祉法人六心会 地域支援担当 地域支え合い推進員）